

プログラムの概要

泌尿器科の特徴：

対象臓器：尿路（腎、尿管、膀胱）、男性生殖器（前立腺など）、内分泌臓器（副腎、副甲状腺）の疾患。

対象疾患：悪性腫瘍（腎臓、尿路、性器）、腎不全治療（腎移植、透析）、下部尿路機能障害、先天性尿路奇形。

対象患者層：高齢者、女性、小児のすべてが対象で、需要は極めて多いです。大学病院では、前立腺癌、腎癌、膀胱癌などの悪性腫瘍の外科治療が中心ですが、関連病院では尿路結石、前立腺肥大症などの良性疾患が多くなります。

外科治療：低侵襲手術・内視鏡手術が中心です。da Vinciを用いたロボット支援腹腔鏡下手術も実施しています。

自己完結型診療科：自分のペースで診療できます。

外来診療：様々な検査、小手術もあります。

手術以外の領域：薬物療法（排尿障害、感染症、癌化学療法）、人工（血液）透析、腎移植の免疫抑制療法。

将来の開業：泌尿器科専門医の約30%は開業医です。高齢患者における前立腺疾患、尿失禁などの需要は増大し、将来性が非常に高いです。



医局内のドライボックスを用いた内視鏡手術実習。5年次BSLで、最初の指導を行います。



シミュレータ室内に設置しているda Vinci Siトレーニング用シミュレータ。24時間使用可能です。初期研修医対象の講習も行っています。

プログラムの特徴：

- 以下のすべてをローテートします。
1. 低侵襲外科治療グループ
 2. 腎不全・腎移植グループ
 3. 女性泌尿器科・排尿障害・小児泌尿器科グループ
 4. 悪性腫瘍グループ

教育システムの特徴：

1. 1年目からの臨床技能教育。
2. 最短期間での専門医資格取得；泌尿器科、透析、腹腔鏡下手術等

アピールポイント

臨床においては、一般泌尿器科疾患はもちろん、排尿障害、腎不全治療、女性泌尿器科、小児泌尿器科、泌尿器悪性腫瘍、内分泌代謝疾患、腎移植などの各種専門分野すべてを学べます。動物を用いた腹腔鏡下手術研修を行い、さらに最先端外科治療であるda Vinci手術チームに参加できます。研究においては国際学会、国内学会への参加・発表を積極的に推奨しています。

2019年 集合写真(5階北病棟)



2019年9月 日本排尿機能学会



井原達矢学部内講師、望月孝規助教、志村寛史医師の3名が日本排尿機能学会学会賞の3部門を独占受賞しました。若手医師も積極的に国際学会・国内学会に参加し、発表を行っています。

da Vinci手術300例達成 記念祝賀会



2018年10月にダビンチ症例が300例を越え、記念祝賀会が山梨グランドホテルで開催されました。

新規導入された da Vinci Xi



2013年4月に手術支援ロボットda Vinciを導入し、泌尿器科では根治的前立腺全摘除術、腎部分切除術、根治的膀胱全摘除術をすでに400件以上実施しています。今後、腎盂形成術や骨盤臓器脱に対する仙骨脛固定術も施行予定です。

具体的な研修内容

後期研修1年目は大学病院での研修、2年目から関連病院での研修を行います。学外関連病院でも、腹腔鏡下手術、ロボット手術や前立腺レーザー手術の研修ができます。後期研修1年目は経尿道的内視鏡手術、血液透析用シャント手術等、3年目は前立腺全摘除術を目標とします。4年目終了時には泌尿器科学会専門医取得が可能です。大学院入学は、随時可能です。